

◇山田 鐵之助 君

○議長（後松一成君） 次に、26番、山田鐵之助君の一般質問を許可いたします。

（26番 山田鐵之助君 登壇）

○26番（山田鐵之助君） 一般質問を行います。

町の防災体制についてお伺いをいたします。震災は忘れたころにやってくるという格言がありますが、恐ろしいかな、阪神・淡路大震災から10年目の昨年10月、新潟県中越地震が発生、一瞬のうちに尊い命が奪われました。命は幸い助かったものの、被災された多くの方々は先祖から築き上げてきた大切な住居とともに一家の長い歴史を刻む思い出の品々、そして職をも失い現在も不自由な生活を余儀なくされているということに対し、何とっていいのかわかりません。

さて、明治年間に県内で起き記録に残る最も大きな地震は、現在の美郷町全体を襲った六郷地震、陸羽地震であります。明治29年、1896年8月23日午後1時32分、真昼山地内を中心とした微震に始まり31日午後5時6分、大振動となり、被害は六郷を主として畑屋、千屋なども惨状を究めたとあります。いつ来るのかわからない地震、災害に対しての備えをするというのは非常に困難きわまりない作業と思いますが、行政、地域社会、住民がいかなる課題を背負って努力をすれば、災害が来ても一人でも多くの町民を救える、そういう強い町になれるのか、3点についてお伺いをいたします。

1点目、初動体制について。大きな地震が発生し、迅速な応急対策を実施するためには首長の指揮下による初動体制の確立が不可欠であります。過去に災害が少なかったという理由から自分のところは安全と思い込み緊急時にとるべき動きをわかっていないという指摘もありますが、初動体制は現在、どのようなシステムになっておりますか。

2点目、防災無線の整備について。避難勧告がもう少し早ければもっと素早く行動していればという避難のおくれという教訓から防災無線の整備をとという声も聞かれます。この命綱の整備率は全県で67.8%にとどまっております。町長はこの防災無線の整備についてどのように考えておられますか、お伺いをいたします。

3点目、自主防災の組織について。災害の際、自分の命は自分で守るという日常からの備えは言うまでもありませんが、災害弱者と言われる方々は1人ではどうすることもできません。そのため、普段から地元消防団員と地域住民との連携と信頼関係が重要であります。実際の避難現場で力を発揮する消防団員の団員数は減少の一途で全国で92万人だと聞いております。町長は美郷町の消防団員の数は現在のままでよいと考えておられますか。また自主防災組織の強化を図るためにはどのような施策を推進するのですか、お伺いをいたします。よろ

しくお願いいたします。

○議長（後松一成君） 26番、山田鐵之助君の一般質問に対する答弁を求めます。町長。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） 山田議員のご質問にお答えいたします。

町の防災体制についてですが、議員ご指摘のとおり、いつ来るかわからない災害について備えをしておくというは大変に大切なことと理解しております。特に地震につきましては、昨年の新潟県中越地震などを見ればわかるとおり、大規模な災害を引き起し住民生活に甚大な被害をもたらす可能性があります。そのため、平時に可能な範囲で防災施設等を整備することは、備えあれば憂いなしの言葉のとおり、住民に不要な不安を惹起させない意味においても、そして実際の災害時の対応についても重要な意味を持つものと認識しております。

美郷町としては、そうした観点で旧町村のそれら施設等の整備状況等を確認しながら平成17年度において地域防災計画を策定するとともに、安全・安心の確保につながる確保につながる各般の施策を展開してまいりたいと考えているところです。

さて、初めのご質問の初動体制についてですが、昨年11月上旬に災害時における緊急伝達系統を構築、その系統図を作成しており、仮に地震等が起きた場合、これら系統図により迅速に連絡をとる体制を整備しております。その上で町と町消防団、広域消防等関係機関が連携を図りながら迅速、かつ的確に初動を確保してまいりよう関係者において検討、確認しているところです。次に、防災無線の整備についてですが、災害発生時に有効な情報伝達システムを整備しておくことは大変に大切なことであると認識しております。防災無線については、郡内においては仙北町や田沢湖町で整備されているようですので、こうした事例調査を行うとともに、町の防災計画策定に当たってその整備の必要性等を検討してみたいと考えております。

なお、本日、大曲仙北管内の市町村まちづくり担当職員による秋田のまちづくりを考える懇談会が開催されますが、その中で美郷町では地域防災無線整備に対する補助率向上の要望をすることといたしております。

次に、自主防災組織についてですが、現在の美郷町消防団員は定数484人に対しまして433人の団員となっております。欠員については徐々に補充されてきており、合併後間もない現段階では消防団については現在の定数内で団員確保に努めてまいりたいと考えております。また、大規模災害時には消防団員だけではその対応が不足することも想定されますので、常日ごろ、各行政区内で地域住民同士の交流や連絡を取り合いお互いに助け合う雰囲気醸成するように努める

とともに、特に救命については老人クラブや日赤奉仕団等の集会の機会を利用させていただき、広域消防の協力を得ながら救急救命講座等の研修会を開催し、災害時における自主的活動を助長するよう努めてまいりたいと存じます。

以上をもちまして答弁を終わります。

○議長（後松一成君） 26番、再質問を許可いたします。

○26番（山田鐵之助君） 丁寧なご答弁、大変ありがとうございます。

1番目の初動体制について1点だけ質問させていただきたいと思います。初動体制の迅速がいかにも多くの生命を救うかという事例がありますのでお話しさせていただきたいと思います。

10年前の阪神・淡路大震災のときの北淡町という町ですけれども、北淡町に地震が平成7年1月17日午前5時46分に発生しております。そこで、小久保さんという町長さんですけれども、6時に町の役場に到着したと。これはかなり早いのではないのかと思ひまして聞いてみましたら、家から役場までは300メートルしか離れていなかったと。そして、倒壊はしたんだけどもはい上がってきたということでございました。そして、6時15分には住民から一報がありまして救助を求める電話があったと。その状態でもう既にパニック状態だということでございました。そして、6時半には災害対策本部を設置したと。そして、8時半には兵庫県の知事に対して自衛隊の派遣を要請をされております。そして、発生から11時間の午後16時52分に家屋の下敷きとなった行方不明者を含め300人を救出して行方不明者をゼロと確認をしておるということでございます。これは町長さんが言うにはまさに奇跡的だと。やはり全員が協力したおかげで行方不明者が全然いなかったということでございます。そして、やはりこれはそのトップの方がいかに早く災害対策本部に入って自分の町の情報の収集をして号令するか、命令するかにかかっているんだなというふうに感じました。

そこで、町長に一つお伺いをしたいんですけれども、町長はいざ地震が発生したときに備えるために家庭でどのような対策を講じておられるんでしょうか、一つお伺いいたします。

○議長（後松一成君） 答弁。

○町長（松田知己君） 指示であります。防災時においてすぐ持ち出しできるような、そういった備えは努めてやっているつもりです。また家屋倒壊等の場合、どうするかということについても一番大切なのは水、食料であろうと考えておりますが、幸いなことに家業がお店をやっていますので直ちに商品をとれば食料はあるということで、そういった部分で対応に頑張っているところであります。

○26番（山田鐵之助君） はい、備えというものは大事だなと思いますので、私たちも含めましてそういうことを万全にやっていきたいなと思います。

2点目ですけれども、防災無線についてですけれども、防災無線の必要性というものが、千屋断層があります。長い研究の成果から千屋断層は陸羽地震の断層であると。そして、今後もマグニチュード7以上の地震が発生する可能性があるというふうに断定をしております。しかしながら、研究成果から活動間隔が3500年程度であることが判明しており、100年前に起こっているのでこの断層が近い将来、大きく活動する可能性は極めて少ないのではないかと、いうふうにも言われておるわけでございます。こういう結果を見ますと、やはりいつ起きるかわからないということでございますので、やはり防災無線の必要性というものは重要だと思いますので、やはりお金がかかる、そういう問題でございますけれども何とか地域防災計画に取り入れていただきまして長い目で整備をしていただきたいと思いますというわけでございます。

それから、3点目ですけれども、最後の質問ですけれども、合併協議会のすり合わせのときにはこのようになっております。合併後、地域防災計画を速やかに策定をするとありますけれども、最後の質問ですけれども、いつまであの地域防災計画を策定するのか、その点について1点お伺いしたいと思います。

○議長（後松一成君） 答弁、松田町長。

○町長（松田知己君） 地域防災計画の策定については、17年度当初予算案の中にその経費を盛り込ませていただいておりますので、予算案を議決いただいた後、新年度がスタートし、極力早々に策定に関する着手をしてまいりたいと思っておりますので、極力早く策定したいということでご理解いただきたいと思います。

○26番（山田鐵之助君） 質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（後松一成君） 以上で26番、山田鐵之助君の一般質問を終結いたします。